

残夏

ひんやりとした風に吹き寄せられ
片隅に掃き寄せられる枯れ落ち葉

幼児の掌を引く女^{ひと}たちの傍らで
咲き群れる青い朝顔

生に追い立てられても
微風に愛撫されても

変わることなく繰り返される波動
その上に浮き沈みする日々

暑熱に焼かれ、淀んでいた大気の
癒しきれぬ視線のさ迷い

かすかな予感の上に漂う雲は
それらの祈りを呼吸する

暫しの休息にまどろむことを許されよ
慄え^{うち}の中にすすり泣くことを許されよ

(2000.8.28)